

「仕事ができる社員、できない社員」という本からです
短所を必死で直そうとする人 “ムダな努力” はしなくていい!

私は、自分の長所や短所について、あまり考えたことがありません。そこで「性格の長所と短所」には一体どんなものがあるのかをちょっと調べてみました。

普通に考えれば、両極端な性格があれば、どちらかが長所で、もう片方が短所になるはずなのですが、実際はどうもそうではないようです。たとえば「人見知り」という性格も、それと正反対の「調子がよくて八方美人」という性格も、どちらも短所となってしまいます。あるいは一つの性格であっても、片や「面倒見がいい」と長所としてとらえたり、「お節介」と短所としてとらえたりもしています。

同じように「責任感が強い」に対して「一人で抱え込む」もあります。つまり、一つの性格を両面から見て、いいとか悪いとかいつているのです。要するに、人間は誰でも自分の性格に悩んでいて、長所として考えてもいい性格を短所としてとらえてしまいます。ある側面に対して「面倒見がいい」という見方をするときもあれば、「お節介」ととらえたりもするのです。そう考えると、どんな性格も欠点になり得ることになります。それくらいなら、長所だの短所だのと考える必要はありません。短所を直そうなどという意味のない、ムダな努力はせず、むしろ「自分に自信を持つ」ことを優先してください。自信を持っていない人は、周りからも評価されないものです。また、本来自分が持っている実力も発揮できません。

ではどうやって自信を持てばいいのか。長所も短所も関係なく、ただ「自分はこうなのだ」と割り切れればいいのです。ひどい欠点があって、それが問題を続けざまに引き起こすようなら、それは当然ながら直さなくてははいけません。ただ、その人が一般常識を持ち合わせている「普通の人」であるなら、必要以上に短所を気に病むことはないのです。

長所の裏返しは短所なのであり、つまり短所のない人がいたら、その人には長所もないことになります。ですから、短所だと決めつけて落ち込んだり、自分はダメだと思ったりする必要はありません。

ただ、長所であると同時に短所にもなり得る性格として、自分にどんなものが備わっているのかは、きちんと把握しておくようにしましょう。

把握しておけば、短所によって失敗しないように、自分で気をつけることができます。短所を無理に直そうとしなくても、長所を伸ばすことによって対処できることもあるでしょう。

うっかり間違いを犯してしまったというレベルの話を自分の欠点としてとらえ、どうにかして欠点を直そうとあくせくするのは間違っています。アバタもえくぼといわれますが、一流といわれる人は、「アバタもえくぼに見えてくるような人間」としての魅力があるものなのです。

一流といわれる人の魅力は何だと言っていますか？

()